



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要がある場合、あらかじめ公告する一定の日
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵送物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 電話照会先 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
受付時間 9：00～17：00（土日休日を除く）
- 公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.teikokudenki.co.jp/>
（ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。
- 3.未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 帝国電機製作所 〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地
TEL 0791-75-0411（代表）



株式会社 帝国電機製作所

〔証券コード：6333〕

Business Report

株主の皆様へ

第119期 中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

市場のニーズを追い風に、さらなる成長に向けて、グループ一丸となって挑戦してまいります。

Q 当第2四半期連結累計期間の業績についてお聞かせください。

A 当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高12,909百万円（前年同期比26.8%増）、営業利益2,288百万円（同115.3%増）、経常利益2,774百万円（同124.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,894百万円（同136.0%増）となりました。

ポンプ事業の売上高は、主要顧客である化学業界において、設備投資が底堅く続いており、特に中国市場を中心としたアジア市場において、ケミカル機器キャンドモータポンプ等が堅調に推移したことにより、増加いたしました。

電子部品事業の売上高につきましても、自動車減産等の影響は続いているものの、半導体等の部品不足は徐々に回復傾向にあり、増加いたしました。

利益面につきましては、ポンプ事業においては売上高の増加や利益率の改善、為替影響等、電子部品事業においては売上高の増加及び粗利率の改善等により、ともに増益となりました。

Q 今後の見通しはいかがでしょうか？

A 今般の第2四半期決算開示に合わせ、通期連結業績予想を上方修正し、売上高26,730百万円、営業利益4,480百万円、経常利益5,050百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,520百万円となる見込みであることを公表いたしました。

ポンプ事業の売上高は、中国市場、米国市場を中心に全体としても堅調に推移していることに加え、為替影響がプラスに寄与することから、当初予想を上回る見通しであります。中国市場においては、高水準の受注残に加え、足許の受注もケミカル向けを中心に堅調に推移しております。また、米国市場においては、足許の受注ペースは落ちているものの、高水準の受注残により売上高は堅調に推移する見込みであります。

電子部品事業につきましては、部品の供給制約は緩和されつつありますが、自動車減産等の影響は続いており、先行きについては不透明感があります。

利益面につきましては、主にポンプ事業における売上高増加や中国市場の好調な受注環境を背景とした採算性改善、為替影響等により営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が当初予想を上回る見込みであります。

Q 今後の成長戦略についてお聞かせください。

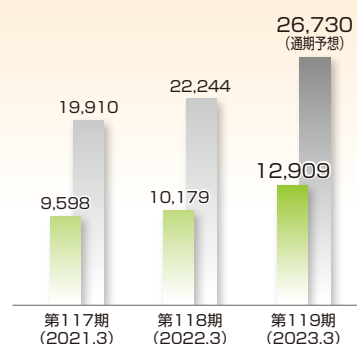
A 世界的な環境問題に対する意識の高まりから、現在脱炭素は世界的な潮流であり、各国が国策として予算を計上し、実証実験や設備投資を行っています。脱炭素社会の実現のために、再生可能エネルギーや水素・アンモニアの活用、蓄電技術の進化が求められており、これらはキャンドモータポンプが活躍できる分野であることから、脱炭素市場でのニーズを確実に捉えていくことが当社の成長に繋がると認識しております。

例を挙げると、国際航空運送協会（IATA）は、主に植物等のバイオマス由来原料や廃棄物・廃食油を原料とする持続可能な航空燃料（SAF）の生産を、現在の年間10万kLから2050年には少なくとも年間4億4,900万kLに拡大する必要があると公表しています。

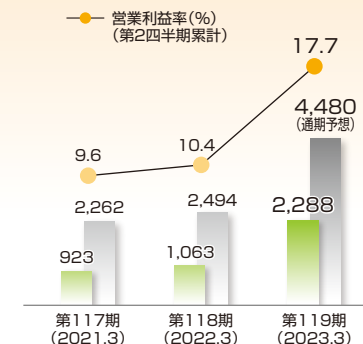
このような脱炭素市場でのニーズに応えるために、マーケティングを強化していくとともに、技術力強化に向けて従業員のレベルアップを図ってまいります。また、需要の高まりに対応するために、総額約50億円の成長/大規模投資を計画しており、国内・海外子会社における生産能力の拡充やメンテナンス体制の強化を図ることで、当社グループとしてさらなる成長を目指してまいります。

代表取締役社長
頃安 義弘

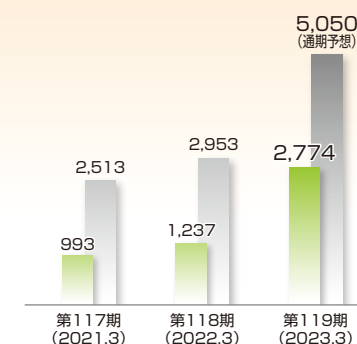
売上高



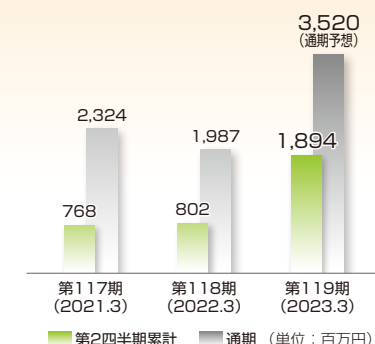
営業利益／営業利益率



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



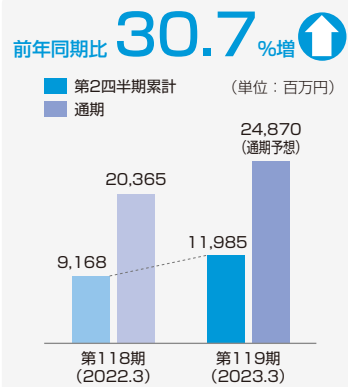
(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

セグメント別事業の概況

ポンプ事業



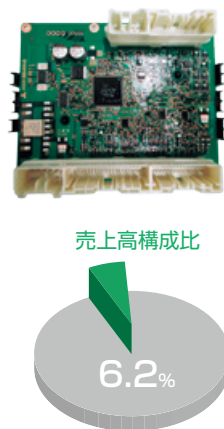
売上高



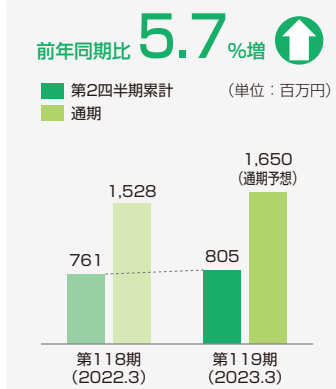
ポンプ事業は、特に中国市場を中心としたアジア市場において、ケミカル機器キャンドモータポンプ等が増加したことにより、堅調に推移しました。

その結果、売上高は11,985百万円（前年同期比30.7%増）、連結売上高に占める割合は92.9%となりました。また、営業利益は、売上高の増加や利益率の改善、為替影響等により2,248百万円（同119.1%増）となりました。

電子部品事業



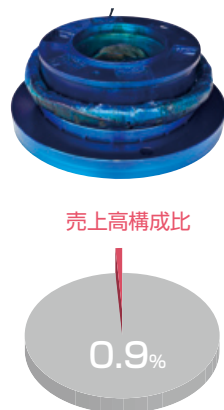
売上高



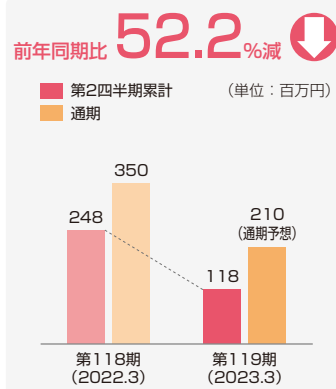
電子部品事業は、売上高は805百万円（前年同期比5.7%増）、連結売上高に占める割合は6.2%となりました。

また、営業利益は、売上高の増加及び粗利率の改善等により、27百万円（同625.6%増）となりました。

その他



売上高



その他は、売上高は118百万円（前年同期比52.2%減）、連結売上高に占める割合は0.9%となりました。

また、営業利益は、売上高の減少等により12百万円（同63.0%減）となりました。

TOPICS 1

新製品紹介 IEシリーズ

当社は2022年7月より、従来品比で最大約30%のポンプ効率を向上させた新製品「IEシリーズ」の生産を開始しております。「IEシリーズ」は、ポンプ内部で回転して液体を移送する羽根車部分（インペラ）の構造を改良したことで、ポンプ効率の向上に成功いたしました。液体を外部に漏らさない構造に加えて、設備の省エネルギー化でも脱炭素社会に貢献いたします。

本シリーズは、国際的なポンプ寸法規格「ISO2858」準拠製品をラインアップしており、さらに米国石油協会（API）の定める石油精製・石油化学用シールレスポンプの規格「API685」にも個別対応が可能です。今後は、米国機械学会（ASME）の定める化学プロセス向けシールレスポンプの規格「B73.3」に準拠した製品についてもラインアップする計画であり、欧米の化学市場でのシェア拡大に向けて、引き続き取り組んでまいります。



TOPICS 2

ドイツで開催された「ACHEMA 2022」に出展

2022年8月22日～8月26日の5日間、ドイツのフランクフルトで開催された「ACHEMA 2022」に出展いたしました。ACHEMAは、3年に1度開催される世界最大規模の化学装置・機械の展示会です。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により1年の延期を経ての開催となり、50ヵ国以上から2,200社以上が出展、127ヵ国から約7万人が来場いたしました。

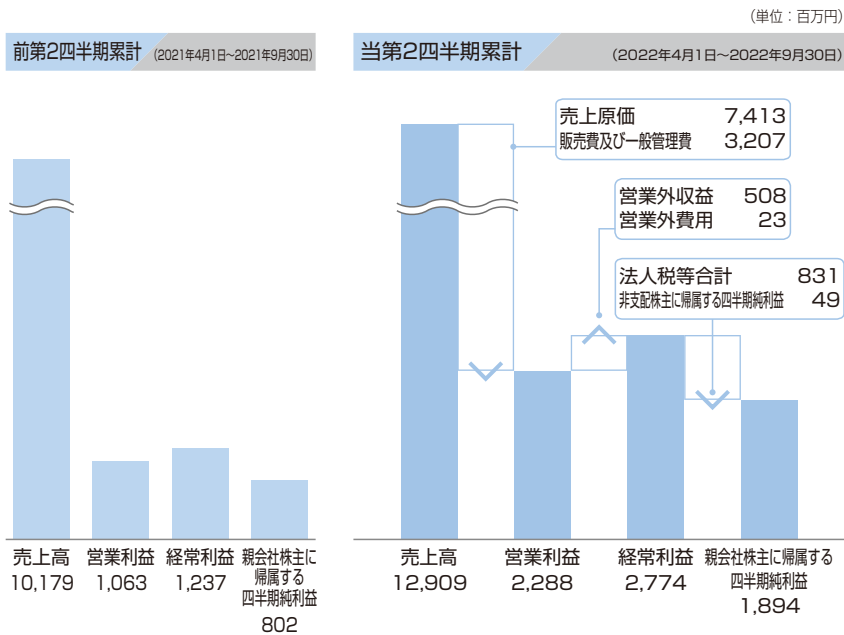
6回目の出展となる今回は、各種キャンドモータポンプや定量ポンプを展示し、キャンドモータポンプについてはISO2858準拠型やLNG等に採用されているインタンク（ポット）型が注目を集め、多くのお客様に当社ブースを訪問していただくことができました。

今後も展示会へ積極的に参加し、当社製品が持つ優位性をアピールしていくとともに、脱炭素等の社会課題の解決に貢献してまいります。



▶▶▶▶▶ 四半期連結財務諸表

▶▶▶▶▶ 四半期連結損益計算書



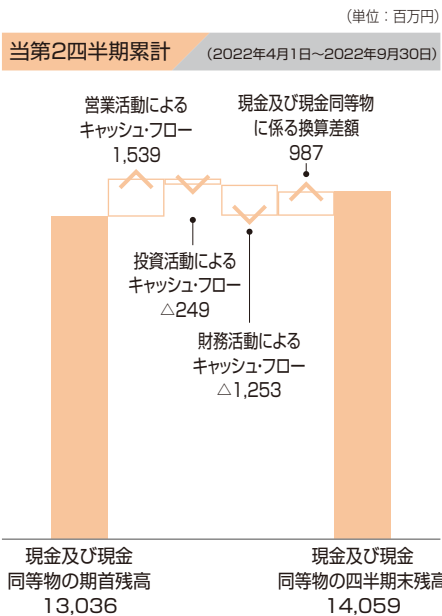
▶▶▶▶▶ 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2022年3月31日現在)	当第2四半期末 (2022年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	28,099	31,339
固定資産	10,901	10,890
有形固定資産	8,689	8,749
無形固定資産	181	155
投資その他の資産	2,029	1,985
資産合計	39,001	42,230

科 目	前期末 (2022年3月31日現在)	当第2四半期末 (2022年9月30日現在)
負債の部		
流動負債	7,368	8,190
固定負債	1,341	1,584
負債合計	8,710	9,775
純資産の部		
株主資本	28,493	29,237
その他の包括利益累計額	1,525	2,867
非支配株主持分	272	350
純資産合計	30,291	32,454
負債純資産合計	39,001	42,230

▶▶▶▶▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書



▶▶▶▶▶ 会社情報／株式情報

▶▶▶▶▶ 会社概要 (2022年9月30日現在)

社名	株式会社帝国電機製作所 TEIKOKU ELECTRIC MFG. CO., LTD.
設立	1939年9月12日
資本金	31億4,367万5,150円
従業員数	連結 1,277名 単体322名
本社	〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地 Tel. 0791-75-0411 (代表)
ホームページ	https://www.teikokudenki.co.jp/

▶▶▶▶▶ 役員 (2022年9月30日現在)

代表取締役 社長執行役員	頃安 義弘	取締役 (常勤監査等委員)	阿部 孝司
取締役 常務執行役員	村田 潔	社外取締役 (監査等委員)	林 晃史
取締役 執行役員	佐藤 哲造	社外取締役 (監査等委員)	川島 一郎
取締役 執行役員	加減 孝司	社外取締役 (監査等委員)	沖 剛誠
執行役員 杉本 洋一郎			

▶▶▶▶▶ グループ会社 (2022年9月30日現在)

- 国内子会社
- ・株式会社協和電機製作所
 - ・上月電装株式会社
 - ・株式会社帝伸製作所
 - ・株式会社平福電機製作所
- 海外子会社
- ・TEIKOKU USA INC.
 - ・大連帝国キャンドモータポンプ有限公司
 - ・*大連大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
 - ・*台湾帝国ポンプ有限公司
 - ・TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD.
 - ・TEIKOKU ELECTRIC GmbH
 - ・TEIKOKU KOREA CO.,LTD.
 - ・HYDRODYNE TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.

(注)*は大連帝国キャンドモータポンプ有限公司の子会社であります。

▶▶▶▶▶ 株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	69,200,000株
発行済株式の総数	20,440,038株
株主数	3,404名

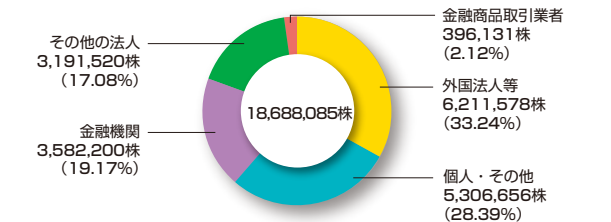
大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
三菱電機株式会社	2,286,400株	12.23%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,728,600株	9.25%
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	1,496,100株	8.01%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,283,576株	6.87%
株式会社日本カストディ銀行	747,700株	4.00%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY	650,002株	3.48%
徳永 耕造	538,900株	2.88%
NIPPON ACTIVE VALUE FUND PLC	536,100株	2.87%
刈田 耕太郎	434,744株	2.33%
株式会社三井住友銀行	410,000株	2.19%

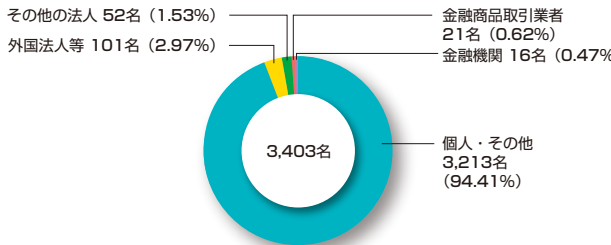
(注) 1.当社は自己株式を1,751,953株所有しておりますが、上記大株主から除外しております。
2.持株比率は自己株式を控除して算出しております。
3.株式会社日本カストディ銀行の所有株式数には、(信託口)、(信託口4)、(信託A口)、(年金特金口)、(年金信託口)の所有株式数を含めて表示しております。

▶▶▶▶▶ 株式分布状況

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有者別株主分布状況



(注)自己株式(1名1,751,953株)を控除しております。